

Daily Report (号外)

～国内株式市場の大幅下落について～

概要

8月初の国内株式市場は2営業日続落となりましたが、特に8月2日は日経平均株価の終値が前日比▲2,216円の下落となり、史上2番目の下げ幅となりました。

2日間に亘る国内株式市場の大幅下落について、8月1日の下落は、金利感応度（銀行が上位で不動産が下位など）と為替感応度（輸送用機器が大きく下落）が大きく影響しました。8月2日は、リスクオフ相場となり、高βの業種/銘柄が大きく売り込まれる一方、ディフェンシブ業種/銘柄の下落幅は相対的に軽微となりました。各種経済指標の結果を受けて、雇用情勢の軟化や景況感悪化が表面化したとの見方が強まったことで、8月1日の米国株式市場が大幅に下落や、7月30日から31日にかけての日銀金融政策決定会合及びFOMC（米連邦公開市場委員会）での日米の金融政策の方向感の違いから、日米金利差縮小が意識され円高が進行したことが背景となっています。

市場反応(株式市場)

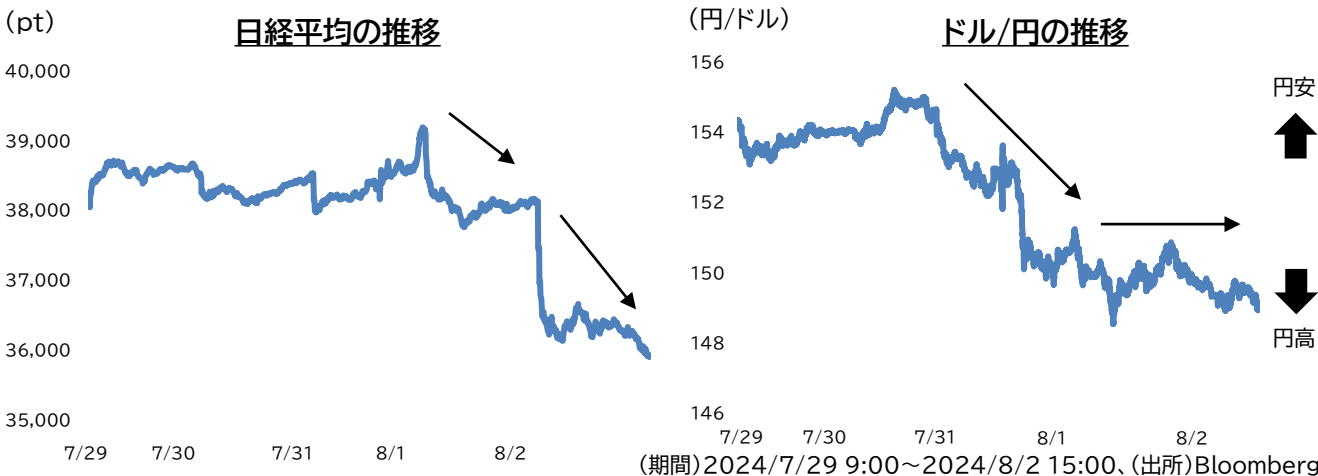
2日の日経平均株価は、前日比▲5.81%の35,909円70銭と大幅に下落して取引を終えました。前営業日の米国株式市場の大幅下落を受けて、国内株式市場は前日比682円16銭安で寄り付いた後も下げ幅を拡大しました。

1日の米国株式市場は、公表された米経済指標の多くが市場予想より悪化していたことから、景気が想定以上に減速しているとの警戒感が強まり、NYダウは前日比▲1.21%、S&P500指数は同▲1.37%、ナスダック総合指数は同▲2.30%と揃って下落しました。また、主要な半導体関連銘柄で構成するフィラデルフィア半導体株指数が同▲7.14%と大幅に下落したことを受けて、国内株式市場でも値がさ株である半導体関連セクターに売りが波及し、日経平均株価の下落に繋がりました。さらに、為替市場での円高進行が輸出関連株に対して向かい風となる中、輸送用機器、電気機器、機械などのセクターが大幅安となったことも国内株式市場全体の重荷となりました。

米ドル/円は、米経済指標の結果を受けてFRBが9月に利下げを実施する観測が強まる中、米長期金利の低下による日米金利差縮小を受けて1日には円高が大幅に進行し、2日は149円10銭付近で横ばいの推移となっています。（日本時間 8/2 15時時点）

■前営業日(8/1)の米国株式市場動向

NYダウ	S&P500	ナスダック 総合指数	フィラデルフィア 半導体株指数
▲1.21%	▲1.37%	▲2.30%	▲7.14%



今後の見通し

日経平均株価は、米国の景気悪化懸念と、それによる米国の金利低下、円高進行懸念から、当面は値動きの荒い展開を予想します。下値の目処は昨年10月安値から今年7月高値までの上げ幅の61.8%押しである35,000円近辺と見ています。

ただし米景気の減速はFRBの積極利下げを促し、それにより米経済はソフトランディングする可能性が高いと見ていることに加え、2024年度の企業業績は10%程度の増益が見込まれる中、予想PERは過去平均を下回る13倍台にあること、企業による積極的な自社株買いが見込めるほか、物価上昇と賃金引き上げの好循環や企業のガバナンス強化等に着目し、日本経済や企業を再評価する海外投資家、新NISAを通じた個人投資家資金の流入による良好な需給環境が期待できること、円安トレンドの反転は海外投資家のさらなる日本株投資を促す要因になると思われること、などから、売り一巡後は、基調的な上昇トレンドに回帰すると見ています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
8/22 - 8/24	ジャクソンホール
9/12	ECB理事会
9/17 - 9/18	FOMC
9/19 - 9/20	日銀金融政策決定会合

出所: Bloomberg